

第20回住宅系研究報告会

＜主催＞都市計画委員会・農村計画委員会・建築計画委員会・建築社会システム委員会

住宅・住宅系まちづくりのテーマは、建築計画・建築社会システム・都市計画・農村計画などで取り上げられ、大会では毎年多くの論文が発表されています。昨年度に引き続き、横断的な発表・討論の場を設定し、研究成果の共有、研究者間の交流を続けるため、第20回目の住宅系研究報告会を開催します。

報告会では発表・討論の機会を重視し、司会とは別にコメンテーターを設け、意見交換や議論を通してさらに研究や活動が発展することを意図しています。

また、第一日目にパネルディスカッションを開催し、総合的な議論の機会を設けます。

会 期:2025年12月13日(土)・14日(日)

会 場:建築会館・日本建築学会会議室(東京都港区芝5-26-20)

参加費:会員2,500円、会員外3,850円、学生(会員)1,000円、
学生(会員外)1,100円

※一度のお支払いで、両日ともに参加可能です。

※資料は別売(税込3,000円、PDF)です。購入者にはシンポジウム前日までにお申込み時に登録いただいたメールアドレス宛に送付します。なお、発表者(共著者除く)には資料(第20回住宅系研究報告会論文集PDF)を1部送付いたしますので、さらに必要な方以外は資料購入の必要はありません。

※資料は報告会終了後、本会建築書店にてCD-R版を販売する予定です。

定 員:80名(申込先着順)

申込方法:クレジット決済によるWeb事前申込み

<https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=713771>

申込締切:12月10日(水)

注意事項:

- ・本催し物は、参加費事前払いによる申込み制です。当日の飛び入りでの参加はできません。
- ・お申込み後の参加費の払い戻し(キャンセル)や他の催し物への振り替えはできません。
- ・学生の方は、通信欄に学校名を必ず入力の上お申込みください。社会人学生の方は学生申込みの対象外とさせていただきます。
- ・法人会員・賛助会員の方は、1口につき5名まで会員参加費でお申し込みができます。(要・サインイン)
- ・お申込み後、自動返信メールにて参加券ダウンロードのご案内をお送りします。記載のURLからPDF参加券をダウンロードのうえ、必ずプリントアウトして当日受付にご提出ください(スマートフォン等による画面提示はご遠慮ください)。二日間参加される方は、各日ご提出ください。
- ・領収書は、申込後にメールで送信される「お申込み受付完了通知」に記載のURLからダウンロードしてください。領収書の宛名はお申込み時にご入力ください。申込後の宛名変更はできませんのでご注意ください。
- ・講演者は都合により変更となる場合がございます。また講演が一部、録画映像となる場合がございます。
- ・建築会館入口の電子掲示板にて当日、会議室名を確認のうえ会場へお越しください。

手話通訳等の個別支援について:視覚・聴覚・言語その他コミュニケーションに関する情報保障等配慮を検討いたします。報告会での発表、並びにパネルディスカッションへの参加にあたり、手話通訳や要約筆記、移動支援など希望される方は、その旨、11月26日(水)までに下記問合せ先にご連絡ください。なお、サービスの可否と制限については、申請状況や予算を勘案のうえ、後日、結果を通知いたします。

建築CPD:申請中

問合せ:住宅系研究報告会 jyutakuken@aij.or.jp

住宅系研究報告会 HP:<http://news-sv.aij.or.jp/jyutakuken/>

.....
パネルディスカッション

「空き家を遊ぶー住宅の二次利用案ー」

我が国では空き家の増加が喫緊の問題となっており、令和5年時点
で空き家戸数は900万戸、総住宅数の13.8%の割合となっている。悲
観的にとらえれば大量の負債にもみえるが、楽観的に考えれば国民の
1割が空き家を所有・活用すれば解決する問題ともいえる。近年では空
き家を改修し、サードプレイスを自分で作る、二拠点生活を送る、仲間と
集う場所をつくる、生活空間を拡張する、といった事例が増えている。空
き家活用を促進するためには、まずは空き家を所有することの楽しさ、
豊かさを知ることが必要ではないだろうか。

農村部の空き家は、質や状態にもよるが、数十万～百万円程度で購
入可能な空き家が数多く存在する。趣味の感覚で出すことのできる金
額としては、新車を買うよりも安い。趣味の延長線上のように、まるで映
画を見に行くかのように「空き家を遊ぶ」方法を知ることができれば、お
のずと日本の空き家問題は解決するのではないか。本パネルディスカ
ッションでは、利益を生むために「空き家を使う」のではなく、人生を豊か
にし、楽しむために「空き家を遊ぶ」実践を行っている方々を招待し、空
き家を遊ぶ方法について議論を行いたい。

日 時:12月13日(土) 16:00～18:00

パネリスト:梅本修平(和歌山県有田市消防本部/辻本)、いとうとも
ひさ(株式会社いとうともひさ)、西村周治(合同会社廃屋/西村組)

主旨説明:林和典(近畿大学)

司会:青木佳子(千葉商科大学)

コメンテーター:青木佳子(前掲)、益尾孝祐(愛知工業大学)

まとめ:友淵貴之(宮城大学)

企画・コーディネイト:住宅系研究報告会 農村計画委員会 幹事

.....
＜プログラム＞

(発表時間10分・質疑応答5分、コメンテーターによる講評15分、○印は発表者)

1日目 12月13日(土)

開会の挨拶 (10:00～10:10)

益尾孝祐(愛知工業大学)

セッション1:住宅内外の活用・住みこなし (10:10～11:55)

司会:深井祐紘(明星大学) コメンテーター:前田昌弘(京都大学)

1.(報告区分1) 戸建て住宅における中間領域の利用と居住者のワー
ーク・エンゲイジメント及びストレス解消との関係性

○猪野愛唯(大阪公立大学)、土井脩史、小伊藤亜希子

2.(報告区分2) 戸建て住宅を活用した子ども食堂の事例分析ー福
岡県内を対象としてー

○水谷華音(九州産業大学院)、大庭知子

3.(報告区分2) セルフリノベーションの遠隔支援に関する研究ー木造
戸建住宅の耐震改修工事を対象としてー

○西野雄一郎(大阪公立大学)、徳尾野徹

4.(報告区分1) つっぱり棒ユーザーの住みこなしの特徴

○外山乃愛(大阪公立大学)、土井脩史、小伊藤亜希子

5.(報告区分1) 障がい者グループホームの設計に関する研究ー設
計協議時の内容と竣工後の利用状況を比較してー

○松谷正大(ディーズパレット株式会社)、碓田智子

6. (報告区分2) 既存建築ストックを活用した高齢者向け地域施設の事例分析 -福岡市「なごみの家」の使われ方調査-
○加藤汰知(九州産業大学大学院)、大庭知子、信濃康博

セッション2 近現代における歴史的住宅群の形成・変容・活用 (13:00~14:15)

- 司会: 足立壮太(東京理科大学) コメンテーター: 関川華(近畿大学)
7. (報告区分1) 旧芦屋市宮宮塚町住宅の建築的特徴に関する研究
○竹本真(神戸大学)、堀内啓佑、中江研
8. (報告区分1) 旧芦屋市宮宮塚町住宅の建設経緯に関する研究
○堀内啓佑(神戸大学)、竹本真、中江研
9. (報告区分1) 戦前期不燃建築群の保存・活用に関する研究 -函館・銀座通りの沿道型店舗併用住宅群を対象として-
○小暮悠(函館工業高等専門学校)、真野洋介
10. (報告区分1) 旧軍需工場宿舎の長屋分割に起因する接道状況の変容と現代的課題
○三森弘(名古屋大学)

セッション3 集合住宅の居住実態と今後のあり方 (14:30~15:45)

- 司会: 後藤智香子(東京都市大学)
コメンテーター: 碓田智子(大阪教育大学)
11. (報告区分3) 公営住宅の存続の必要性 -宮城県営住宅の用途廃止の方針を事例として
○窪田亜矢(東北大学)
12. (報告区分1) 大阪府内においてPFI手法により建設された公営住宅の住戸平面構成に関する現時的傾向
○関川華(近畿大学)
13. (報告区分1) 高経年集合住宅団地における複数住宅居住
○辻誠斗(大阪公立大学大学院)、小伊藤亜希子、土井脩史、王飛雪、小林美登
14. (報告区分1) 大規模高層住宅団地の経年変化からみた持続可能性に関する研究 -1970年代に竣工した3団地の居住者特性・意識・行動・共用空間利用の実態-
○藤村悠生(名城大学)、高井宏之、土井脩史、山口健太郎、関川華、高田光雄、張文博

2日目 12月14日(日)

セッション4 復興過程における居住・生活・地域の再構築 (9:30~11:30)

- 司会: 青木佳子(千葉商科大学) コメンテーター: 浅井秀子(鳥取大学)
15. (報告区分1) 復興初期における「ふるさと回帰型」急急仮設住宅の居住実態と共用空間活用 -令和6年能登半島地震被災集落・穴水町下唐川における空間変容と生活再建プロセスをふまえて-
○田中正道(金沢大学)、益邑明伸、荒木笙子、野口雄太、伊藤夢乃、藤井容子
16. (報告区分2) 被災地における組織連携による拠点型支援と生活復興に関する研究 -令和元年台風第19号・栃木県宇都宮市における被災住宅の位置情報に基づいて-
○坪井壘太郎(帝京大学)
17. (報告区分1) 能登半島地震被災集落での非現住世帯の役割 -輪島市門前町道下集落での2007年と2024年の比較を通じて-
○井ヶ谷光優(神戸大学大学院)、山口秀文
18. (報告区分1) 原発被災地大熊町での若年層の生活実態と帰還・移住の過程に関する研究
○木村結衣(筑波技術大学)、梅本舞子、山脇博紀
19. (報告区分1) 令和6年能登半島地震後の仮設コミュニティセンターにおける被災者生活支援の実態に関する研究 -輪島市の仮設住宅地内におけるコミセンBASEの取り組みより-
○安藤陸都(神戸大学大学院)、槻橋修、浅井保
20. (報告区分3) 被災地の公的住宅セーフティネットにおける孤独死問題に対する政策的妥当性の検討: 阪神・淡路大震災と東日本大震災の経験を踏まえて
○田中正人(追手門学院大学)
21. (報告区分1) 贈与行為から見る漁村の共同体性と空間領域に関する研究 -気仙沼市唐桑町大沢地区を事例として-
○相澤佑斗(宮城大学)、友淵貴之

セッション5 住宅流通市場と居住者意識 (11:45~13:15)

- 司会: 梅本舞子(筑波技術大学)
コメンテーター: 内海康也(国土技術政策総合研究所)
22. (報告区分1) 中古戸建て住宅流通の地域特性に関する考察 -福井県福井市を対象として-
○佐藤暉(福井大学)、菊地吉信
23. (報告区分1) 団地・建物・区画の特性からみた住宅建替と空き家化の実態 -大分市の住宅団地を事例として-
○山崎陽生(大分大学)、柴田建
24. (報告区分1) 小規模自治体における不動産情報量の現状と空き家バンク活用の可能性 -北海道全自治体及び積極的取り組み自治体への調査を通して-
○朝倉陽奈(室蘭工業大学)、五十石俊祐、佐々木優二、真境名達哉
25. (報告区分1) 土地区画整理事業の代替計画策定プロセスにおける居住者の意識変化
○石塚幸輝(千葉大学)、北野幸樹、松浦健治郎
26. (報告区分1) 世帯特性別の家計構造と住居費負担の実態に関する研究
○今野彬徳(国立研究開発法人建築研究所)、内海康也

セッション6 建築の再生・解放・活用 (14:00~16:00)

- 司会: 林和典(近畿大学) コメンテーター: 友淵貴之(宮城大学)
27. (報告区分2) 空き家・空き店舗を自発的公共空間へ転用する計画と採算性の検討 -大阪市生野区・一条通中央商店会を対象として-
○山口陽登(大阪公立大学)、徳尾野徹、西野雄一郎
28. (報告区分1) 過疎地域における空き家の賃貸借活用のプロセスとその実態に関する研究 -中国・四国地方に着目して-
○大西美波(京都大学大学院)、関川華、前田昌弘
29. (報告区分1) 地域文脈の観点からみた空き家リノベーションの発展構造とまちづくりに関する研究 -神戸市垂水区塩屋を対象として-
○石川瑞己(神戸大学)、山口秀文
30. (報告区分1) 戸建て住宅空き家を活用した外国人留学生寄宿舎の整備手法と地域への影響 -茨城県利根町の日本語学校留学生を対象として-
○廣谷泰斗(株式会社フージャースコーポレーション)、山本幸子
31. (報告区分1) 地分散型ホテルの成立に関わる要因 -複数事例の初期開発に関わる専門家の考えから
○高木玲香(名城大学大学院)、高井宏之
32. (報告区分1) 2000年代初頭からの町並み保存と再生の経緯 -鳥取市鹿野町城下町地区における住民意識と保存活動の変遷-
○浅井秀子(鳥取大学)、熊谷昌彦、野津紫文
33. (報告区分2) 集会所を道にひらくデザイン -厚木市緑ヶ丘団地における「オープンストリート」構想の実践 その2-
○田村裕希(東京工芸大学)、森田芳朗

セッション7 住宅地の構成・変容と地域特性 (16:15~17:45)

- 司会: 青木嵩(大阪大学) コメンテーター: 齊藤圭(東京都市大学)
34. (報告区分1) 土地所有と居住者に着目した戦前開発の戸建て住宅地の多様性に関する研究 -尼崎市・武庫之荘住宅地の開発初期の分析から-
○山口秀文(神戸大学)
35. (報告区分1) 郊外住宅団地における住宅更新と子育て世帯の居住動向 -福岡県宗像市日の里地区を事例として-
○江崎彩乃(大分大学)、柴田建、黒瀬史史
36. (報告区分1) 重要文化的景観選定地域における保全・補助事業に関する研究 -京都府宇治市を対象として-
○直木郁也(近畿大学大学院)、林和典
37. (報告区分2) 小田原市西海子地区における地域資源の発掘と住民共有のための実践的取組
○野口直人(東海大学)、猿山綾花、小沢朝江
38. (報告区分1) 夙川の河川整備を通じて形成された住環境と地域文脈の醸成過程に関する研究 -兵庫県西宮市の夙川河川敷緑地を対象として-
○池野光美(大手前大学)、下田元毅

閉会の挨拶 (17:45~17:55)

山口秀文(神戸大学)